

関西の景気ピックス【雇用関連（21年8月）】

- 21年8月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は3.2%（原数値）と、前年比で横ばいの動きとなった。変化の内訳は、就業者数が前年比で横ばいとなったほか、失業者も横ばい、非労働力人口は5万人の減少となった。前月まで失業者の増加は4か月続いていたが、8月でいったん止まる形となっている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、21年8月は1.06倍（季節調整値）と前月比で0.03ポイント低下した。
- 有効求人倍率や新規求人数の過去数か月の推移をみると、概ね底を打った感があるものの、改善のトレンドは非常に緩やかであり、先行きに対して楽観視は許されない。賃金の動向も、大阪では直近で前年を下回る動きとなっている。全体的にみると、雇用情勢の本格的な回復には、まだまだ時間がかかると考えられる。

